

12/12  
(日)

玉島西公民館主催 第2回人権教育講演会

片山内科クリニック院長 片山 祐夫 先生

## 『認知機能が低下しても嫌な思いをしない・させない方法』

「認知機能が低下すると、見たものが何かわからず食べることができないなど日常生活に支障をきたしたり、周囲が自分のことを非難していると思いこんだりするような症状が様々に出て、楽しくなくなりがちです。そういった時、周囲の人たちはおかしいとか、しっかりしなさいとか言わず、自信と誇りを取り戻す声掛けをすることが大切になってきます。

その人の尊厳を守り、ありがとう感謝の気持ちを伝えることで、自分が役に立っていると感じることができ、楽しくなります。」などの先生のお話から、認知機能が低下した人を気遣う言葉を使うことが、いかに重要であるかが理解でき、実践しなくてはという気持ちになりました。

また、水分をしっかりと歩き、人と触れ合って、認知機能の低下を遅らせることができることもわかりました。それと同時に認知症に関する医学が進んでいる現状についてのお話もあり、前向きな気持ちになりました。

## &lt;参加者の声&gt;

- 亡き母にもっと「ありがとう」と言っておけばよかったと反省しています。(60代)
- 92歳の母が自宅で一緒に暮らしています。お話のたくさんのが心に響きました。感謝する・ほめる・認める・誇りを大切にすることに気づいていませんでした。館長さんもおっしゃっていましたが、子どもも高齢者もみんなが自己肯定感をもてるようしていくことが大切だということを実感しました。(60代)
- 今は亡き父母に感謝の気持ちでいっぱいです。「ありがとう」「すてきだよ」の声かけの一言が大切だと気づかされました。日常でも使いたいと思いました。(70代)

## 人権ポスター・標語展 12月4日～12日

人権週間（12/4～12/10）に合わせ、玉島西公民館小会議室に玉島小学校・柏島小学校・玉島南小学校・玉島西中学校の児童・生徒の皆さん的作品を展示しました。来館者は子どもたちの力作に感心するとともに、人権の大切さについて改めて考える機会となりました。



第44号

# なかよし

発行者 倉敷市玉島西中学校区人権学習推進委員会  
事務局 倉敷市玉島西公民館  
住所 倉敷市玉島柏島 7038-6  
TEL/FAX (086) 528-2713

## 人権学習推進委員会としてのSDGsの取組

令和3年度倉敷市玉島西中学校区人権学習推進委員会はSDGsの取組として、玉島の地を活性化させ、玉島の地を担う人材を育成するため、地域の方を講師として、高校生を対象に玉島を知ることから取組を進めてきました。

今後は、高校生が玉島の町を案内するという取組につなげていきたいと考えています。



## 10/17(日) 玉島の神社と良寛さん

元小学校長の小田和男氏を講師にお迎えして、玉島の神社についてのお話をいただきました。誰にでもある、幼い頃の神社での秋祭りやお正月の思い出を大切にしてほしいというお話をしました。そして、人生経験から得られた「言霊」の話も印象的でした。プラスの言葉を使うことで、気持ちもプラスに働き、人だけでなく動植物まで影響を与えるという「言霊」の力。意識して使わなくてはと思いました。また、玉島といえば良寛さん、というぐらいなじみの深い人物ですが、何に対しても慈悲深い良寛さんの姿から、良寛さんの人物像とともに、多くのことを私たちは学んでいるというお話をしました。

## ★高校生の感想★

(前略)「人生に無駄はない」「失敗から学ぶことがある」の二つの言葉に、これからあるであろう苦悩にも、強く立ち向かおうと思った。今まで地域のことできづいていなかったことに改めて気づかされ、感動した。これからも地域のことについていろいろと調べていきたい。



## 10/23(土) 人権について

人権学習推進委員会会長の城戸信公氏を講師にお迎えして、お話をいただきました。人権について、私たちが知っておかなければならることはたくさんあります。「無知や無関心は最大の敵」という言葉は、とても共感できる言葉でした。この人権学習推進委員会では、地域の方々の人権意識を高めることができ大きな狙いとなっています。その意味でも、この日のお話は大きな意義を持つものであったと思います。

## ★高校生の感想★

立場や年齢によって考え方や価値観も違うと思うので、自分の考えや意思をしっかりと持った上で、他の人の考えも尊重することを大切にしていくこうと思いました。



## 11/13(土) 源平の水島合戦



講師に全国平家会の事務局長を務められた小松和夫氏をお迎えし、全国平家会の陣羽織を着て、お話をいただきました。水島の合戦は、源平合戦のうち、数少ない平家方の勝利に終わった戦いです。平家方は当日が日食であったことを知っており、源氏方はそれを知らなかったことが勝敗を分けた大きな要因であったという話でした。八百五十年ほど前にここ玉島の地で繰り広げられた水島合戦。大きなロマンを感じるお話でした。

### ★高校生の感想★

源平水島合戦は、名前だけ聞いていたが、今回の講演を通して平氏が勝った数少ない戦いであることや、そのような戦いが私の住む辺りで起こっていたことを初めて知った。私たちは、自分が住む地域のことを全く知らないのだと思った。

## 11/21(日) 防災について

人権学習推進委員会副会長の西山壽男氏に防災についてお話をいただきました。西山氏は、平成16年の高潮被害を経験されており、たまテレの映像とともに、当時の地域の被災した様子が生き生きと再現され、西山氏の言葉の一つ一つには、経験した方にしか分からぬ重みを感じられました。また、マイタイムラインを作成することの大切さを説かれました。後半の地域の方と高校生とのグループワークでは、地域の方が体験談をお話しされ、高校生が熱心に聞き入る姿が印象的でした。

### ★高校生の感想★

自分の防災意識の低さを痛感した。地域との協力はもちろんするべきではあるが、まず自分が災害が起きたときに落ち着いて行動できる状態になるために、今後も講演などに積極的に参加したり、防災の体験などを繰り返したりして、様々な状況に対応できるようになりたいと思った。

## 12/11(土) 玉島の交通について



講師に、「たましま会」の会長を務められている武田芳紀氏をお迎えして、お話をいただきました。武田氏は、たまテレでも「アミッショントーク」と出演されており、玉島の歴史や文化について精通されている方です。特に、玉島港から溜池までをカヌーで進み、水上から玉島の町を眺めるというたまテレの映像は大変印象的でした。玉島駅と玉島湊をつなぐために、当時はストンポッチという船が運航していたことを聞いた高校生たちは、一様に驚いた顔をして聞き入っていました。

### ★高校生の感想★

昔の玉島がどんな感じだったのかが知れて良かった。船や人力車が主であった当時と比べて、車や自転車や電車などが発達している今こそ、昔とどう向き合い、未来に発展させていくか考える必要があると思った。玉島の歴史を勉強することをきっかけとして、社会や世界で起こっている問題と向き合っていきたい。

来年度は、この取組をさらに発展させて、県立玉島高校、玉島商業高校、市立玉島高校、玉島西中学校にも対象を広げていきたいと考えています。SDGsのSは Sustainable(=持続可能な)という意味です。この取組を持続・継続して、玉島の町の発展につなげていけるように、いろいろな方のお力を借りしながら、来年度もさらにパワーアップしていきたいと考えています。

10/26(火)



## みんなあつまれ！ 玉ちゃんまつり

パパレンジャー登場



おかしつり



清々しい青空の下、「みんな集まれ！玉ちゃんまつり」が開催されました。オープニングではパパレンジャーの寸劇に、園児たちは歓喜の声を上げ、大いに盛り上がり、その後は保護者が工夫した遊びやゲームコーナーをめぐって楽しみました。今回は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、園児、PTA役員、父親の有志のみの参加でしたが、幼稚園全体が一つの家族のようにまとまって、まつりを楽しんでいました。どの保護者も園児のことをよく知っていて、どの子にも我が子のように接している様子は微笑ましく、みんなから愛情いっぱい注いでもらっている玉島幼稚園児は幸せだなという印象を受けました。(事務局員)

11/7(日)

## 第9回八幡地区ウォーキング大会



さわやかな秋晴れの空の下、玉島みなと公園に22名が集まり、八幡愛育委員会主催の八幡地区ウォーキング大会が、健康づくりの一環、地域住民の交流を深める機会として開催されました。

健康運動実践指導者の中山和佳子氏から、踵から着いてつま先で蹴るローリング歩行という歩き方の基本を教えていただいた後、準備運動をして1周約680mの園路を3周半ウォーキングして、心地よい汗を流しました。

参加者の中には、準備運動の段階から体が思うように動かず日頃の運動不足を痛感し、毎日少しずつでもいいから歩いて、健康増進に努めたいと決意を新たにした人もいました。

